

2025年度 応用地形判読士資格検定試験（通算第13回）

〔実技試験問題〕

実技試験の注意事項

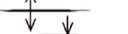
- (1) 実技試験の実施時間は、12時30分から15時30分までの3時間とする。
 - (2) 試験開始後1時間は、退場を認めない。
 - (3) 机上には、筆記用具、消しゴム、定規類、鉛筆削り、拡大鏡、実体鏡、受験票、試験問題用紙、答案用紙、時計以外のものは置かないこと。
 - (4) 通信機器類および電子機器類（ウェアラブル端末（スマートウォッチ）を含む）の使用は一切禁じる。また、携帯電話など音を発生させる機器類は、必ず電源を切ること。
 - (5) 試験の開始にあたり、試験問題の欠落や印刷に不鮮明な箇所がないことを確認すること。
 - (6) 解答は、図示を求める問題に対しては〔地形図〕と〔記号凡例用紙〕に、論述を求める問題に対しては〔論述式答案用紙〕に、それぞれ記入すること。
 - ◇ 〔地形図〕と〔記号凡例用紙〕および〔論述式答案用紙〕には、受験番号を必ず記入すること。
受験番号が未記入であったり間違えている答案は、採点から除外する。
 - (7) 指定した読図範囲について、問題にしたがい読図すること。実体視できる範囲については、読図に加えて空中写真を判読すること。
読図の結果は、その地形図上に図示すること。図示するにあたり、地形種の輪郭は明確に記入すること。ただし、地形種は、記号、色、模様などにより判別できる様にする。
 - (8) 地形図に記入する地形判読記号、色、模様などは、特に定めない。ただし、使用した地形判読記号などは、問題毎に〔記号凡例用紙〕（問1.～問3.に共通し1枚）に記入すること。
 - (9) 論述式の解答は、印刷してあるマス目に従い、楷書で記入すること。
 - (10) 試験問題には、国土地理院発行の地形図と空中写真を使用している。地形図は上を北としている。
 - (11) この注意事項の説明後は、原則として質問に応じない。
 - (12) 試験終了後、①地形図、②記号凡例用紙、③論述式答案用紙、④空中写真は、机の上に残すこと。ただし、この問題用紙は持ち帰ってもよい。
- ◆ 発熱など、体調に異常があるときは、直ちに監督員に申し出ること。状況に応じ、一旦退席、または試験の辞退をお願いすることがある。

◇ 〔地形図〕 と 〔記号凡例用紙〕 および 〔論述式答案用紙〕 には、

受験番号 を必ず記入すること。

- 問 1. 地形図に一点鎖線で示した範囲（作図範囲A）について、地形図判読と空中写真判読によって地すべり・大規模崩壊によって形成された地形を抽出し、その結果を地形図上に図示しなさい。
地形分類記号などは任意に設定して、別紙の〔記号判例用紙〔問 1,2,3 共通〕〕の問 1 用の箇所に記入しなさい。
- 問 2. 地形図に破線で示した範囲（作図範囲B）のうち平野の部分について、地形図判読と空中写真判読によって微地形を区分した地形分類図を作成し、その結果を地形図上に図示しなさい。
地形分類記号などは任意に設定して、別紙の〔記号判例用紙〔問 1,2,3 共通〕〕の問 2 用の箇所に記入しなさい。
- 問 3. 地形図に実線で示した範囲（地図の全域、作図範囲C）について、地形図判読と空中写真判読によって変動地形を抽出し、その結果を地形図上に図示しなさい。
地形分類記号などは任意に設定して、別紙の〔記号判例用紙〔問 1,2,3 共通〕〕の問 3 用の箇所に記入しなさい。

<参考：国土地理院の「都市圏活断層図」で使用している記号の例>

	活断層		横ずれ
	活断層(位置やや不明確)		縦ずれ
	活断層(活撓曲)		活褶曲
	活断層(伏在部)		地形面の傾動方向

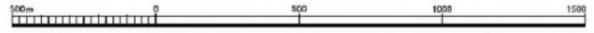
- 問 4. 問 3 で判読した変動地形を形成する活構造のいずれかが活動して地震が発生した際に、地形図（範囲C）に含まれるいずれかの地点または地域において、地震が連鎖的に引き起こす現象により発生する可能性のある災害を想定しなさい。
具体的な地点または地域を地形図上に記号や番号で示した上で、その地点または地域でどのような現象がどのように連鎖しどのような災害が想定されるかを、〔論述式答案用紙〕に合計 800 字を超えないように記述しなさい。

以上

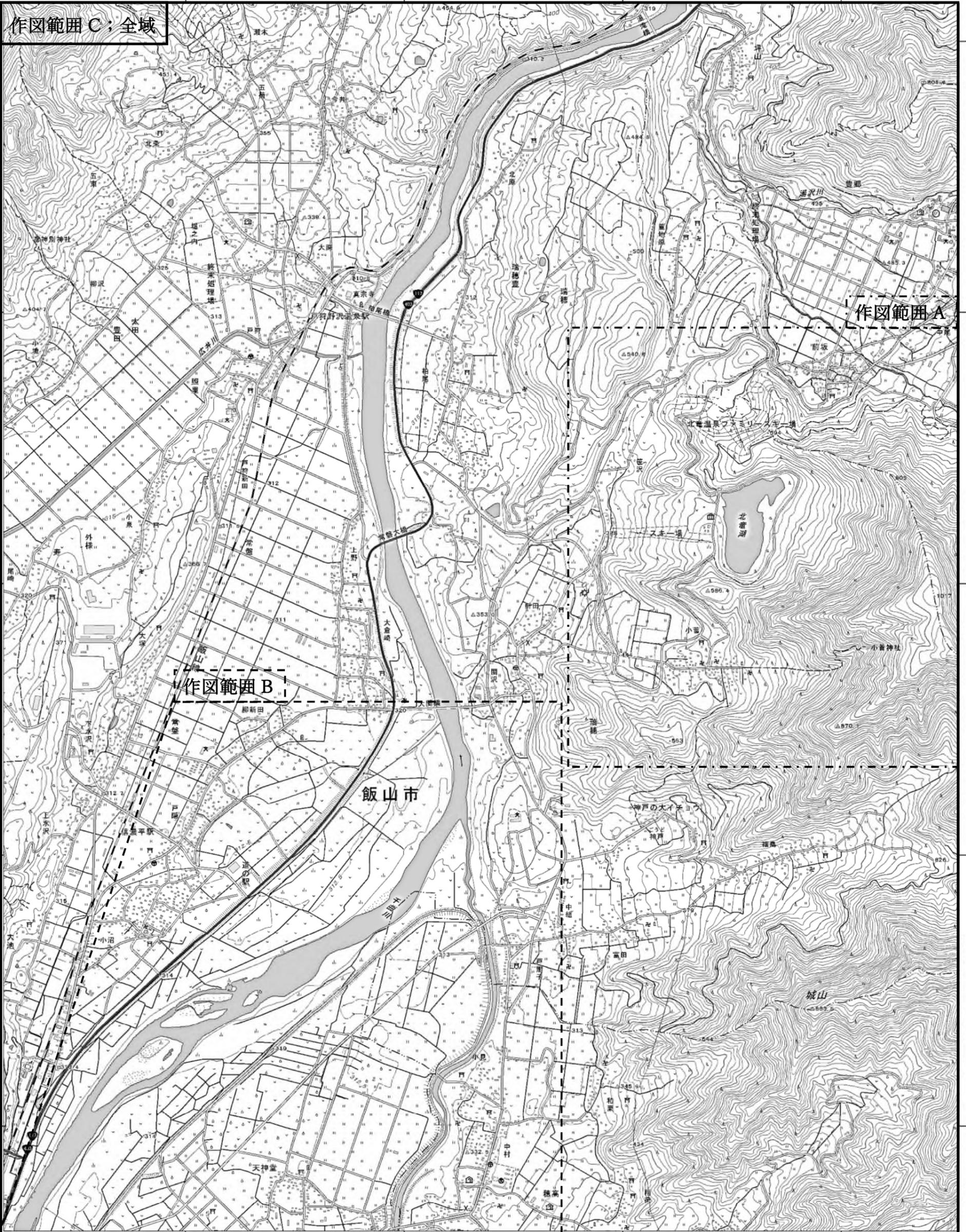
<参考>

地形図 国土地理院「電子地形図25000」 / 出題範囲は図示の緯度・経度を参照
空中写真 整理番号：U631AN01 / コース番号：CA / 写真番号：31, 32, 33, 34

138° 22' 9.90"
36° 56' 8.43"



138° 26' 32.50"
36° 56' 8.44"



138° 22' 10.03"
36° 51' 36.83"

138° 26' 32.37"
36° 51' 36.82"

1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第54帯、中央子午線は東経141°
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線及び等深線の間隔は10メートル
5. 磁気偏角は西偏約8° 20'
6. 図式は平成24年電子地形図25000図式
7. 本図上部の枠内には、この地図の購入者が入力したものをそのまま記載しています

測地成果2024

令和7年 6月16日 調製

著作権所有兼発行者 国土地理院

138.41-36.90-A3-t-20250616-085709-0000